15 この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり４本

試読・購読はこちらから

2020年8月16日号　　編集／毎日新聞社販売局D.クリエーションセンター

東京パラリンピック1年前特集「有森裕子さん×道下美里さん対談」

23日（日）＝特集面

１年延期された東京パラリンピックは24日に１年前を迎えます。アスリートは延期をどのように捉え、再び目標に向けてどう向かっていくのでしょうか。1992年バルセロナ五輪女子マラソン銀メダリストの有森裕子さん＝写真㊧＝が、東京パラリンピック女子マラソン（視覚障害）代表に内定している道下美里選手（三井住友海上）とオンラインで対談し、その胸の内に迫ります。

そこが聞きたい 「映画館公開か、ネット配信か 行定勲監督」

18日（火）＝オピニオン面

新型コロナウイルス感染拡大で公開が延期されていた映画「劇場」。7月17日から、映画館での公開と同時に米配信大手の定額サービス「アマゾン・プライム・ビデオ」での配信が始まりました。映画館公開からネット配信まで半年程度空けるのが「慣例」となっている映画界では異例となった今回のケース。なぜこうした動きになったのでしょうか。行定勲監督＝写真＝に話を聞きます。

特集ワイド

17日（月）＝夕刊特集ワイド

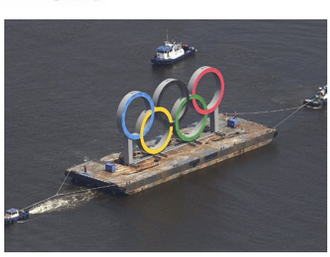
「コロナとファッション　丸山敬太さんに聞く」

新型コロナウイルスの感染拡大がアパレル業界を直撃しています。名門ブランドが国内外で倒産し、暗いニュースばかりが続いていますが、ファッション業界はコレクションの発表回数を減らすなど「リセット」に動き始めているといいます。コロナ禍で人心も経済も萎縮する中、ファンタジーの世界観を演出してきた「ケイタマルヤマ」のデザイナー、丸山敬太さん（55）は、ファッションの未来をどのように描いているのでしょうか。外出自粛期間中の取り組みをまじえ、丸山さんにインタビューしました。

論点

戦後75年　スポーツと平和

19日（水）＝オピニオン面



お台場海浜公園から一時的に撤去される五輪マークのモニュメント＝2020年8月6日

戦後75年の今夏は特別な季節になるはずでした。けれども、新型コロナの影響で、「平和の祭典」と呼ばれるオリンピックの東京大会は延期となりました。平和であればこそのスポーツですが、世界の至るところに「分断」が生じています。コロナ禍のいま、スポーツの役割とは何なのでしょうか。ロンドン五輪2012の陸上男子800㍍に出場した横田真人さんら、アスリート・識者に話を聞きます。

竹橋の窓辺から

編集後記

今年は終戦から75年目。私に戦争体験を語ってくれた祖父は10年前に亡くなり、身近な存在で戦争を語れる人はもういません。祖父の話は今でも記憶に刻まれていますが、これからはそうした体験を語れる人がどんどん少なくなっていくのだと感じています。

「拝啓 戦争の時代から～75年後のあなたへ」など戦争を考える企画記事は、日々のニュースとは違う、でも語り継ぐべき情報がたくさん詰まっています。それは「生きた教材」の集積であり、新聞が果たすべき大事な役割なのだと改めて思いました。（志村光太）

※都合によっては掲載日や内容を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。